

平成 30 年度 国際理解ワークショップ 進行シート

作成日： 平成 30 年 8 月 2 日

大 学 名： 上越教育大学

タイトル： お米から考えよう～世界の食料事情とこれからの私たち～

1：本ワークショップの要旨

小学校では用水路や稲作体験や食文化等、中学・高校では世界の現状に関する学習に関連付けて、お米を切り口としながら世界の食料事情について柔軟に思考をめぐらせます。身近な「お米」から日本の食料自給率の問題、さらに海外から輸入した食材に依存した食生活を題材とし、世界とのつながりを「相互依存度神経衰弱」等の子どもたちが主体的に学ぶアクティビティを使って、協働的に体験しながら、将来を見据えて自分と食のあり方を考え直す参加型のプログラムです。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

新潟県の特産品としても日本人の主食としても身近な存在である「お米」に着目し、日本で「お米」を食べる人が減少していることや、他の食材の自給率が低く外国からの輸入に依存しているという現実を知り、参加者どうしで意見を共有することを通して、将来を見据え世界とのつながり感じながら「お米」や食との関わり方を捉え直そうとする態度を育成することです。

3：本トピックをとりあげる理由

グローバル化により私たちは、海外の食事を手軽に楽しめ、食を通して離れた国の文化にも触れることができるようになった。このような豊かな食生活は、多くの食品を外国からの輸入に依存して成り立っている反面、日本の食料自給率は低下している現状がある。一方、お米は日本の主食であり、新潟県は国内有数の生産地として有名である。また新潟県の子供たちにとって、お米は地域としての田園風景や学校での稲作体験など非常に身近な存在として学習することができる。このワークショップを通して、日本で主食としてのお米の消費量が減っている現状や、様々な食材を海外からの輸入に依存し食料自給率が低くなっている状況を体験的に学ぶことで、参加者がお米や食への見方や考え方を捉え直すことができるのではないかと考えた。また、郷土の特産物として身近な存在のお米であるからこそ、参加者どうしの意見や考えの共有もしやすく、将来を見据えながら考えを深めていけると考えた。

4 : 活動過程

(使用時間 : 90分 参加人数 : 15名～60名程度)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
導入 : 起 (15分)	<p>[①グループづくり] クラス混合で5～6人のグループを形成する。</p> <p>[②ウォームアップ] テーマについてグループ内で意見交換をする。</p> <p>①好きな季節は？ ②好きな寿司ネタは？</p>	<p>「同じグループ番号のひとを集まって座りましょう。」</p> <p>「出会いを大切に、授業を一緒に作っていくために、心と体の緊張をほぐしましょう。」</p> <p>「同じ意見、ちがう意見、いろいろあっておもしろいよね。」</p>	<p>・できるだけ時間をかけずに事前に決めたグループで集まれるようにする。</p> <p>・簡単なウォームアップを通して、活動しやすい雰囲気にしていく。</p> <p>・多様な考えを共有できる温かい雰囲気や、グループで協力しながら楽しく課題解決へ向かうきっかけを作る。</p>	<p>・プロジェクター</p> <p>・PC</p>	<p>・誰と同じグループになるのかな。</p> <p>・グループを作る上での配慮等を学校と確認。</p> <p>・児童の発言・態度に気をつける。</p>

<p>展開：承 (30分)</p>	<p>[③クイズ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お米や食料の問題に関するクイズにグループで取り組み、話し合いながら答えを考えていく。 ・ミニホワイトボードにグループで出し合った答えを書いている。 <p>[④相互依存カード]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の相互依存カードを使って、身近な食材はどんな国から来ているのか理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標を提示する。「世界とのつながりを感じながら、お米や食料の問題について考えていこう」 Q1「日本の朝食」 日本で朝食の主食として一番多く食べられているのは次のうちどれ？ Q2「主食とは？」 主食と思うものをできるだけ多く言ってみよう。 Q3「世界で一番多く作っている国は？」 Q4「食べ残しが多い国はどこか？」 Q5「原料を外国から一番多く輸入しているメニューは？」 「食料自給率という言葉を知っていますか？」 ・「食料自給率」の説明 Q6「次の食品の原材料はどこの国から多く日本に運ばれてくるかでしょうか？」 1. サケ 2. えびの天ぷら 3. 豆腐 4. チョコ 5. キシリトールガム 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズに答えることを通して、お米に関する身近な問題からグローバルな食料の問題を考えるきっかけを作る。 ・朝食のパン食が増え、主食としてお米を食べる人が減ってきていることを理解する。 ・主食の意味を捉える。 ・日本は食べ残しが多いことを着目させた後、次の食料輸入の問題に移る。 ・お米の自給率は高いが、ほかの食料は海外からの輸入に依存していることを捉えさせる。 ・まず、それぞれの食品の原材料が何か考えるよう促す。 ・世界地図を示して食料を輸出している国が、日本とどれだけ離れているか確認し、世界とのつな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニホワイトボード ・ペン ・プロジェクター ・パソコン Q1 資料 「日本の朝食に関する調査」 Q4 資料 「食料自給率について」 ・ワークシート ・世界地図 ・相互依存カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・どれもよく食べるな。 ・自分の家はご飯が多いけれど、他の家はパンが多いのかな。 ・パンを食べる人が増えているから、米は減っているのか。 ・こんなに食べ残しが多いのか。 ・どれも日本で作っているんじゃないの？ ・日本は、こんなに外国から食材をもらっているんだ。 ・どこの国の食材なのだろう？
-----------------------	---	---	--	--	---

	<p>[⑤フォトランゲージ]地球の食卓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主食に注目して外国の食生活を写真から想像する。 ①個人でワークシートに記入。 ②写真を見せながらグループ内で紹介する。 <p>※この活動が終わったら、10分休憩</p>	<p>「色々な国から食料が来ていることが分かりましたね。写真のある国の家庭での食生活を想像してみましょう。何を食べていますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像する手がかりとして写真を提示し、考えたことをワークシートに書き込むよう指示する。 	<p>がりに気づかせる。</p> <p>グループで紹介し合うことを通して、様々な国でどんな食事をしているかイメージを広げられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いつかない児童には、何の料理を作るのか、主食は何かを聞いたり、ヒントを与えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の食卓の写真 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本でもよく食べるものもあるな
<p>発 展 : 転 (30分)</p>	<p>[⑥ディスカッション]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では食料を多く輸入しているという現実を捉え、食料の輸入が多いことの利点や課題を考える。 ・まずは個人でブレインストーミングで一枚の付箋に一つの考えをたくさん書いていく。 ・各班で話し合ったことをグループの代表の人が発表する。(3 	<p>「食料の輸入が多いことで、今後どのような良い点があるのでしょうか？逆に、困ってしまう点は何でしょうか？」</p> <p>「まずは自分で考えて、配った付箋に一つの考えを書いてください。黄色の付箋に良い点、赤色に困る点を書いてください。考えたことをどんどん書きましょう。その後、班で話し合います」</p> <p>「最後に、話し合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動で学んだことから、食料を輸入することの意味や課題を考えられるようにする。 ・多角的な見方ができるように、「私にとって」「地域・日本にとって」という複数の視点を示して、考えるようにさせる。 ・グループ内で意見を出し合うことで考えを深めていけるよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙 ・ペン ・2色の付箋 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔みたいにお米が食べられない時には助かる。 ・輸入することでいろいろな料理が楽しめる。 ・外国の安いお米が増えると、新潟はお米が売れなくなり、生産量も減る。 ・お米を作る人は減ってしまうかもしれない。

	<p>グループほど)</p> <p>【⑦外国に輸出 し食料を売ろう とする人の立場 を考える。】</p> <p>①個人でワーク シートに記入。 ②全体で考えを 共有する。</p>	<p>ったことをグルー プごとに発表して ください。」</p> <p>「皆さんも、自分 たちで作ったお米 を販売しました ね。国内だけでな く、外国に食料を 販売する人たちも います。」</p> <p>「では、なぜ世界 の国々は海外へ食 料を輸出している のでしょうか？輸 出をしている国や 人の立場になって 考えましょう」</p>	<p>にする。</p> <p>・ 本日の活動 や、総合でお米 を販売した経験 と関わらせて、 輸出する人の立 場を考えられる ようにする。</p>	<p>・ ワークシート</p>	<p>・ 余るほど作れば 輸出することがで きるね。 ・ 外国に売ればお 金が入る。 ・ 貧しい国に分け てあげることがで きる。</p>
<p>まとめ：結 (15分)</p>	<p>【⑧振り返り】</p> <p>・ 振り返りをワ ークシートに記 入する。 ・ 振り返りをペ ア や全体で共有す る。</p>	<p>「ワークショップ をやって感じたこ とや考えたことを ワークシートに書 いてください。」</p> <p>「では、書いたこと をもとにペアで伝 えあってください」</p>	<p>・ このワークシ ョップを通して 見えてきた良い 点や課題と向き 合い、今後どのよ うに行動してい こうとしている か把握し、評価す る。</p>	<p>・ ワークシート</p>	<p>・ これから自分はど のように食やお米 と関わっていけば よいのだろうか。</p>

5：会場のセッティング

最初は普通の授業隊形をお願いします。ただし、グループでの活動がメインになりますので、班隊形（1グループ4～5人）で行う予定です。活動の導入でグループ作りを行う予定ですが、人間関係等で配慮が必要な場合はお知らせください。

※パワーポイントを使うので、プロジェクターやスクリーン（または大型テレビ）の設置が必要です。

6：使用する教材

パソコン、プロジェクター、スクリーン、スピーカー、ミニホワイトボード、ホワイトボードマーカー、ワークシート、模造紙、付箋（黄色と赤色）、「相互依存度神経衰弱」カード、世界地図、写真「地球の食卓」

7：参考にした資料

- ・「フードマイレージ どこからくる？私たちのたべもの」開発教育協会、2010
- ・「「お米を」を活用したESD 創造的な実践をめざして」宮城教育大学ESD/RCE推進委員会、クリエイツかもがわ、2014
- ・「もったいない！感謝して食べよう」少年写真新聞社、山本茂、2010
- ・「朝食に関する意識調査」全国農業協同組合中央会、2014
- ・「子どもの食育」 http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/kodomo_navi/sheet/cooking1.html (2017/8/9 [参照](#))
農林水産省

8：その他

- ・筆記用具を使用します。子どもたちに持たせるようにしてください。